

リは、てい、老上

編集発行：老上同和教育推進協議会

老上学区まちづくり協議会
老上西学区まちづくり協議会

草津市野路町 520 Tel. 564-1430
草津市矢橋町 526-1 Tel. 565-1995



縁ある人をしあわせに♡

老上同和教育推進協議会 会長 久米田 豊子

みんなが笑顔になるために・・・

「ことば」って本当に大切です。「ことば」ひとつで傷ついたり励まされたり、さまざまな心の変化が表れます。

日常会話をふり返り、暮らしの中にある決めつけ・偏見・差別に気づいていきたいです。

100年前の全国水平社宣言は、被差別部落の人々だけでなく、差別に苦しむすべての人々の解放への思いと、お互いを尊敬し合える社会の実現を目指すものでした。残念ながら今もなお差別は存在しています。老上同和教育推進協議会は、さまざまな差別・偏見・いじめ等を『許さない心』『なくしていく行動』

ができるよう、研修会や懇談会などで人権感覚を磨いていきます。

ホップ (学び)
ステップ (気づき)
ジャンプ (行動)



令和4年度 草津市人権作品

市人権センターが市内の園児・児童・生徒・一般に募集し、総数5,709点の応募の中から選ばれた当学区の作品を紹介します。

🏆 最優秀作品

ポスターの部

優秀作品



老上こども園 4歳児 ほし組
いしはし えな
石橋 依和 さん



老上こども園 4歳児 ほし組
たかの えま
高野 瑛茉 さん

令和4年度 草津市人権作品

標語の部

優秀作品

だいじょうぶ
いっしょにいるよ
私たち

老上西小学校
六年 松尾 夏芽 さん

詩の部

優秀作品

一人ではできないことも、
みんなで力を合わせたならば
いつかきつと乗り越えられる。

みんなで力を合わせたならば

老上小学校

六年 野坂 葉史 さん

一人ではできないことがある。
孤独や寂しさ、虚しさ。
そんな感情に、勝てない時がある。
けれど、
みんなで一人一人を支え合うことが
できたならば。

パズルがうまくついでいくように、
形を成して、壁を乗り越えることができる。

私が入権として大切にしたいこと

老上小学校 六年 三村 風花 さん

老上同和教育推進協議会では、毎年、学区内の小・中学校の児童・生徒に人権をテーマに作文を募集してきました。今回は、老上小学校の代表として選ばれた作文を紹介します。

私が思う人権とは、人間だれもが自由に幸せに生きることができる権利です。人権はだれにでもある権利で、人は自分や相手の人の人権を大切にすべきです。でも、人権を大切にしない人を見るときがあります。私はそんな時に、「相手のことを考えてほしい」と思います。もし、相手の人権のことを考えない人がいたら、私は文句を言いたくなります。でも、ただ文句を言うだけじゃ無責任な言葉になってしまいます。そんな時に、学校の人権学習で考えが広がりました。一見よくないと思うことでもその人にはその人なりの考えがあります。そのことを考えて意見を言うのが大切だと思いました。そこで、どうすればそのようなことができるか考えてみました。

まず、相手のことをよく観察します。そこで、相手の意外な一面を見つけることができるかもしれません。また、相手によくないことをされたときに理由を聞きます。そして、相手の気持ちを理解しながら、自分の気持ちを伝えることが大切だと思います。そうすると相手も、「よくないことだったのかな」と気づいてくれるかもしれません。文句だけを相手に言うのではなく、相手のことも自分のことも理解して大切にしていこうとすることでおたがいにいい気持ちになります。

このように、相手のことを知って理解し、人権とは何かを一人一人が大切に思い続けていけば、平和な世界が訪れると思っています。だから私は、ずっと大切にしていきたいです。

老上こども園PTA

町内学習懇談会

大町



子どもの姿を振り返ろう ～思いやりのリンゴの木を通して～

今年度は、普段何気なく過ごしている子どもたちの姿を振り返りながら成長を感じるきっかけを作ろうと、全保護者対象にメッセージカードを配布しました。

子どもの「ステキなところ」を記入してもらい、人権作品「思いやりのリンゴの木」として掲示したところ、書いてあるメッセージを保護者に読んでもらって嬉しそうにする子どもの姿や、親子が笑顔で一緒に見る光景がありました。

私たちPTA役員もほっこりと心が和み、温かい気持ちになりました。今後も、自尊感情を育むために子どもたちのステキなところを見つけていきたいと思います。

町内学習懇談会推進者研修講座 第3講座

ひとを大切に

草津中学校 教諭 大崎 武弘さん

8月8日(月) 19:30～

9日(火) 19:30～



長年、草津市において教職に就かれてこられた大崎さんに、8月8日は地域の方、9日は老上・老上西学区の教職員と行政協力者にお話をいただきました。

「ひとを大切にする教育」を第一に教育活動を行ってこられた大崎さんは、人権を尊重するためには見た目や先入観でひとを判断することなく、ひとの中身で判断することの大切さを訴えられました。

差別に当たるか当たらないかという身近な例を挙げながら、「正しく判断する」ことの重要性を語り、「ちがう」と「おなじ」はどちらも大切であり、互いに認め合うこと・尊重し合うことが何より必要だと教えてくださいました。部落差別がなくなるのは、違いを認めない「心理的差別」が、「実態的差別」を招くからだとし、繰り返し「正しく学ぶ」ことで心理的差別をなくすることができるかと話されました。

多くのひとは、普段は正しく判断し差別をしないが、いざ自分事になると態度を変える「弱さ」を持っているとし、学び続けることの大切さを改めて感じました。

全国水平社創立100年に学ぶ ～ともに生きる～

11月11日、上寺 和親さんに講師をお願いし、町内学習懇談会を実施しました。

私が同和問題・部落差別のことを知ったのは、この地に住み、子どもを保育園に通わせることになってからのことです。今回の講演で、「噂が偏見を生み差別につながっていく」とのお話がありました。そのような根も葉もない噂で差別を受けた人たちは、大変でつらい思いをしてきたのだと思います。実際に、自分がその立場であったらどうだろうと、想像もつきませんでした。



東新浜町

コロナの感染防止のため、集まったの町内学習懇談会は行わず、「めざめ 第45集」を読んで、その感想や意見をまとめました。

3つのワークシートから、「決めつけ」や「偏見」を止め、「その人自身をみる」こと、「少数者」の立場を思いやること、「差別をなくすために行動する」ことの大切さを学びました。

水平社の創立から100年が経ったにもかかわらず、いまだに部落差別は残っています。簡単に差別をなくすことは難しいですが、これからも「正しく」学んでいきたいと思います。

人権を考えるつどい



大切な私 大切なあなた
みんなの笑顔のために!

老上こども園 園長 中島 昭子さん
8月26日(金) 19:30~

幼少期から現在までのつらい経験を踏まえて、人と人の関りにおいて大切な「もの」について語られました。

人は自らのつらい思いを自分から話すことは少ない。なぜなら誰も「すぐには人を信じられない」、「人から裏切られるのが怖い」と思っているから。だから、こちらから働きかけなければ何も始まらない。自分を大切にするという事は、まず自分が大切にされていると感ずることが必要で、そう感ずることで、人を大切に思ふことができるかと話されました。

自分を好きになることで、人を思いやることができる。気づきの多いお話でした。



多様な見方・考え方で
心豊かな生き方を

老上小学校 校長 西村 洋さん
10月18日(火) 19:30~

冒頭、教育現場で使用している絵本や教科書教材に掲載されている事例に沿って、「正解は1つだけということはない。一人一人、見方が違うのだから、正解はその数だけある」ということを示し、そうしたことに気づくことで「一人一人が安心して発言できる場を作り出すことにつながり、他の人の意見を尊重する気持ちが育つことになる」と話していただきました。

今回の講演をお聞きすることで、「違うということは否定されるべきことではないし、違うということはあって当然のことである」ということに改めて気づくことができました。

県外研修 人権と平和の大切さ

令和4年4月にオープンした「ウトロ平和祈念館」を訪問。1940年頃、飛行場建設(敗戦で中断)のため集められた在日朝鮮人の方々が、終戦後何の補償もなく「置き去り」にされてきました。土地の問題や差別に立ち向かいながらも、ユーモアを忘れずに暮らして来られた歴史を垣間見ることができました。

最近になってやっと公共事業による生活の基盤が整ってきて、来館者も増えているとのこと。人権と平和の大切さ、人との出会いの素晴らしさを伝える場です。私もまず「知る」ことができ、感謝です。



ウトロ平和祈念館にて(令和4年11月21日)



在日コリアンへの差別の歴史と現実を学ぶ



ウトロ放火事件(令和3年8月)の焼け跡



規制から自粛へと舵は切られた。先の見えぬコロナの海を泳ぎ続ける事は辛くて苦しい。部落差別も同様で、全国水平社宣言から100年が過ぎても基本的には変わっていない。声をあげ続けることは無駄ではない。例えコロナ禍であっても、継続こそ力なり! 『町内学習懇談会』然り『りばてい老上』も然り、共に続けて行きましょう。

今号の発刊に協力していただいた皆さんの頑張りこそ熱と光を…。

